

異分野コミュニケーション実践論

所属 生物生産工学研究室

学年・氏名 修士1年 永翁和明

今回異分野コミュニケーション実践論として、奈良女子大学の大学院生と共に自分たちで企画を立案・実行しました。私は本講義を通して他分野の学生と交流することで自身の見識を広げたいと思い参加しました。

本講義で私たちは自分たちの企画は自己満足で終わるのではなく、成果をアウトプットしその結果をフィードバックすることで客観的な評価を得たいというコンセプトを九大・奈良女間で共有しました。このコンセプトを基本とし、高校生を対象に環境問題について興味を抱かせ、新たな知識を提供するという目的のもと、環境問題についての出前授業を行うことを企画内容としました。企画内容の決定までにはかなりの時間と労力を費やしましたが、おかげでその後の活動が意識せずとも目的やコンセプトに基いた一貫した行動となったのではないかと思います。

企画の具体的な活動として、奈良女子大学オープンキャンパスにおけるパネル発表、高校への出前授業を行いました。この2つの活動を通して感じたことは、自分たちの知識を分かりやすく他人に伝えることは非常に難しいということです。難しい内容を伝えたい時にこそ簡単な言葉や表現を用いることで、伝えたい内容と共にこちらの意図や思いも伝わると実感しました。またこれらの活動に至るまでに何度も会議を行い、授業内容を詰めることに尽力しました。この会議も当初は非効率な内容で時間を浪費していたことが問題でしたが、ファシリテーションについて学びそれを実践することで会議の効率を上げると共に質も高めることができました。

私は本講義においてリーダーの役割を担いました。その私が本講義全体を通して常に意識してきたことは『協働』です。本講義は奈良女子大学との協働企画でもあるので、決して自分勝手に進めるのではなく、ゆっくりでもいいからみんなで協力してやることを重視してきました。そのおかげで色々失敗した面はありますが、みんなで協力して企画を作り上げた連帯意識と達成感はひとしおでした。このような珍しい経験のおかげで、私は自身の考えを広く・深いものにでき、人間的に大きくなれたと自信を持って言えます。